



平成22年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月3日

上場会社名 昭光通商株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8090 URL <http://www.shoko.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西本 浩
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 赤羽 吉男 (TEL) 03(3459)5111
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第2四半期の連結業績（平成22年1月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第2四半期	68,509	17.6	749	156.5	729	160.4	622	—
21年12月期第2四半期	58,245	—	292	—	280	—	13	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年12月期第2四半期	5	59	—	—
21年12月期第2四半期	0	12	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
22年12月期第2四半期	57,307		14,501		25.2	129	82	
21年12月期	63,219		14,272		22.5	127	89	

(参考) 自己資本 22年12月期第2四半期 14,459百万円 21年12月期 14,245百万円

2. 配当の状況

	年間配当金								
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計		
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	
21年12月期	—	—	—	—	—	3	00	3	00
22年12月期	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22年12月期(予想)	—	—	—	—	—	3.00	~4.00	3.00	~4.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：有

3. 平成22年12月期の連結業績予想（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	134,202	5.2	1,374	132.5	1,212	134.0	800	294.1	7	18

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：有

4. その他（詳細は、〔添付資料〕4ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年12月期2Q	112,714,687株	21年12月期	112,714,687株
22年12月期2Q	1,333,995株	21年12月期	1,326,735株
22年12月期2Q	111,384,026株	21年12月期2Q	111,397,030株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等につきましては、〔添付資料〕3ページの「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書（第2四半期連結累計期間）	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気の最悪期は脱し、前年同期と比較して回復の兆しは見られてきました。しかし、ギリシャに端を発した欧州の金融不安の影響による混乱の中、引き続き所得や雇用環境の先行き不安は拭えず、依然として全般に厳しい状況の中で推移しました。

当社グループは、このような厳しい経営環境の中、いかなる不況にも耐えうる企業体質の再構築を図る絶好の機会であると捉え、「着実な成長と発展」を標榜した中期経営計画の完遂に向けた施策の実行と合わせ、経費の徹底した効率的な使用、たな卸資産の圧縮、仕入先及び販売先の取引条件の見直し、資金調達方法の見直し等による財務体質の強化と新規事業分野への進出強化等を引き続き実行してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は685億9百万円（前年同期比17.6%増）、営業利益は7億49百万円（前年同期比156.5%増）、四半期純利益は6億22百万円（前年同期は四半期純利益13百万円）となりました。

以下、事業の状況をご報告申し上げます。

なお、各事業における営業利益の前年同期比は、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報の営業費用配賦方法を変更したものと比較しています。

【化学品事業】

化学品部門につきましては、化学品関連は、景気回復の流れを受け、原料関係が貿易取引を中心に堅調に推移しました。また、前連結会計年度に実施した株式会社佐藤商の連結子会社化による事業領域拡大もあり、増収・増益となりました。

科学システム関連に関しましても、景気回復の流れを受け、主力のショウデックスカラムの販売に伸びが見られました。また、株式会社モリテックスより前連結会計年度に譲受けた理化学機器事業による事業領域拡大もあり、増収・増益となりました。

肥料農材関連は、主力肥料製品の市況が好転したことにより販売が回復し、加えて前連結会計年度に出資いたしましたタイヨー株式会社との新規取引が順調に推移し、増収・増益となりました。

以上の結果、売上高は164億47百万円（前年同期比45.1%増）、営業利益は3億37百万円（前年同期比68.5%増）となりました。

【合成樹脂事業】

合成樹脂部門につきましては、原料関連は、景気回復の流れを受け需要が徐々に回復し、またナフサ価格の上昇による値上げの影響で、増収・増益となりました。

製品関連は、昭光プラスチック製品株式会社の株式を売却し、持分法適用会社に変更したことによる影響で、減収となりましたが、製品全体としてはコスト圧縮等により、増益となりました。

以上の結果、売上高は231億32百万円（前年同期比11.8%増）、営業利益は2億28百万円（前年同期比812.0%増）となりました。

【金属事業】

金属部門につきましては、軽金属関連は、IT及び自動車産業分野の景気回復に伴い、主力の軽圧品やアルミ合金・電解箔・微細化材等の需要増により、増収・増益となりました。

無機材料関連は、鉄鋼業界やIT関連産業等、全商材の需要が激減しておりましたが、景気回復に伴った主力の耐火材・アルミナ等の需要増により、増収・増益となりました。

以上の結果、売上高は174億5百万円（前年同期比17.9%増）、営業利益は2億27百万円（前年同期は営業損失27百万円）となりました。

【生活環境事業】

生活環境部門につきましては、住宅建材関連は、住宅着工戸数の落ち込みが継続し、主力のラムダ(外壁材)や土木材が低調に推移しましたが、照明ポールの大型物件の受注及び複層ガラス用アルミスペーサーがエコ施策の影響を受け好調に推移し、減収・増益となりました。

食品関連は、主力のグリシン・アラニン等の販売が堅調に推移し、増収・増益となりました。

不動産関連は、当第2四半期連結累計期間における分譲マンションの販売はありませんでした。賃貸事業関連では企業オフィスの需要減退及び賃料水準が下落したことにより、大型物件での値下げ要請を受け入れたこと等による影響が収益を押し下げました。また、販売目的用地の評価減が大きく影響し、減収・減益となりました。

以上の結果、売上高69億59百万円（前年同期比13.9%減）、営業利益は46百万円（前年同期比77.7%減）となりました。

【情報電材その他事業】

情報電材その他部門につきましては、エレクトロニクス関連は、電子材市況の回復により、LEDや電池材料関係の販売が増加しましたが、一部商材の仕入価格の高騰の影響で、増収・減益となりました。

その他連結子会社に関しましても、新規契約等の影響で好調な保険関連をはじめとして順調に推移し、増収・増益となりました。

以上の結果、売上高は45億64百万円（前年同期比35.3%増）、営業損失は96百万円（前年同期は営業損失116百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報**1. 資産、負債及び純資産の状況**

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、573億7百万円（前期末比9.4%減）となりました。これは前連結会計年度末が銀行休業日による決済ずれのため「受取手形及び売掛金」「支払手形及び買掛金」が減少したことが主因であります。

純資産は145億1百万円（前期末比1.6%増）となりました。これは、四半期純利益増加に伴う利益剰余金の増加及び配当金の支払いが主因であります。

この結果、自己資本比率は2.7ポイント上昇して25.2%になりました。

2. キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて1億25百万円減少し、25億42百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加、仕入債務の減少額の縮小はありましたが、売上債権の増加、たな卸資産の減少額が縮小したことにより前年同期に比べ1億49百万円の支出増加となり、80億1百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出の増加はありましたが、固定資産の売却、預け金の減少額が拡大したことにより前年同期に比べ18億19百万円の収入増加となり、36億17百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額が増加しましたが、短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの発行が償還を上回ったことにより前年同期に比べ28億58百万円の収入増加となり、42億70百万円の収入となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、欧州の金融不安等、先行きに対する不透明感がありますが、世界経済の回復に伴い我が国経済も徐々に回復していくものと予想されます。特に顕著な中国をはじめとするアジア圏内での回復は、我が国経済の牽引役と期待され、輸出関連を中心に好影響を与えるものと考えられます。

このような情勢のもと、当社グループは、2010年を目標年度とした中期経営計画を確実に実行しており、またいかなる環境にも柔軟に対応できる企業基盤の構築を強力に推進してまいります。

当第2四半期連結累計期間の実績及び昨今の景気動向を踏まえ、2010年4月28日に公表しました、2010年12月期連結業績予想を修正いたします。修正内容は同日公表いたしました「第2四半期累計期間の業績予想と実績値の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」のとおりです。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末のたな卸高の算出につきましては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工期1年超の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第2四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間においては工事進行基準の適用要件を満たす工事契約が存在しないため、損益及びセグメント情報に与える影響はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,459	2,490
関係会社預け金	100	202
受取手形及び売掛金	36,217	38,276
商品及び製品	2,588	2,816
販売用不動産	14	17
仕掛品	42	25
仕掛販売用不動産	270	414
原材料及び貯蔵品	199	203
その他	4,086	7,092
貸倒引当金	△236	△294
流動資産合計	45,741	51,245
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,083	2,378
機械装置及び運搬具(純額)	136	133
土地	5,438	5,865
その他(純額)	112	109
有形固定資産合計	7,771	8,486
無形固定資産		
のれん	25	45
その他	219	206
無形固定資産合計	244	252
投資その他の資産		
投資有価証券	2,119	1,854
長期貸付金	105	144
繰延税金資産	184	142
その他	1,349	1,328
貸倒引当金	△208	△233
投資その他の資産合計	3,550	3,235
固定資産合計	11,566	11,974
資産合計	57,307	63,219

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	27,074	37,148
短期借入金	6,189	2,776
未払法人税等	191	242
賞与引当金	147	148
その他	2,419	1,703
流動負債合計	36,022	42,019
固定負債		
社債	3,000	3,000
退職給付引当金	692	858
その他	3,091	3,068
固定負債合計	6,784	6,927
負債合計	42,806	48,946
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,021	8,021
資本剰余金	0	0
利益剰余金	6,420	6,619
自己株式	△218	△217
株主資本合計	14,224	14,423
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	254	374
繰延ヘッジ損益	0	△30
土地再評価差額金	△3	△489
為替換算調整勘定	△17	△32
評価・換算差額等合計	235	△178
少数株主持分	41	26
純資産合計	14,501	14,272
負債純資産合計	57,307	63,219

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
売上高	58,245	68,509
売上原価	54,610	64,326
売上総利益	3,634	4,182
販売費及び一般管理費	3,342	3,433
営業利益	292	749
営業外収益		
受取利息	24	23
受取配当金	47	59
雑収入	59	30
その他	7	—
営業外収益合計	139	112
営業外費用		
支払利息	101	79
雑損失	49	52
営業外費用合計	151	132
経常利益	280	729
特別利益		
貸倒引当金戻入額	162	54
子会社株式売却益	—	31
退職給付制度移行益	—	91
その他	8	32
特別利益合計	170	210
特別損失		
子会社株式売却損	118	—
たな卸資産評価損	184	—
投資有価証券評価損	—	27
その他	2	4
特別損失合計	305	31
税金等調整前四半期純利益	145	908
法人税、住民税及び事業税	114	156
法人税等調整額	16	111
法人税等合計	131	268
少数株主利益	—	17
四半期純利益	13	622

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	145	908
減価償却費	112	139
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△56	△164
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△159	△30
受取利息及び受取配当金	△72	△82
支払利息	101	79
子会社株式売却損益 (△は益)	118	△31
売上債権の増減額 (△は増加)	3,614	△889
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,013	133
仕入債務の増減額 (△は減少)	△13,139	△7,708
未払費用の増減額 (△は減少)	11	49
預り金の増減額 (△は減少)	△397	△350
その他	32	155
小計	△7,675	△7,790
利息及び配当金の受取額	70	85
利息の支払額	△97	△96
法人税等の支払額	△150	△200
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,852	△8,001
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△9	△7
定期預金の払戻による収入	17	15
預け金の増減額 (△は増加)	1,893	3,650
有形固定資産の取得による支出	△81	△68
有形固定資産の売却による収入	—	611
投資有価証券の取得による支出	△11	△485
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	49	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△81
貸付けによる支出	△77	△0
貸付金の回収による収入	17	15
その他	—	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,797	3,617
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,635	3,415
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	—	1,200
リース債務の返済による支出	—	△6
配当金の支払額	△223	△336
少数株主への配当金の支払額	—	△1
その他	0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,411	4,270
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	△11
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,630	△125
現金及び現金同等物の期首残高	7,338	2,668
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	15	—
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	31	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,754	2,542

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年 1月 1日 至 平成21年 6月30日)

	化学品 事業 (百万円)	合成樹脂 事業 (百万円)	金属事業 (百万円)	生活環境 事業 (百万円)	情報電材 その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対 する売上高	11,335	20,685	14,766	8,083	3,373	58,245	—	58,245
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	13	6	—	9	86	115	(115)	—
計	11,349	20,692	14,766	8,092	3,459	58,360	(115)	58,245
営業利益又は 営業損失(△)	264	62	33	254	△99	514	(222)	292

(注) 1 事業区分の方法

当社グループの事業区分は、商品の種類、販売市場の類似性を考慮して行っております。

2 各事業区分の主要商品

事業区分	主要商品
化学品	有機・無機化学品、石油製品、肥料、精密機器等
合成樹脂	合成樹脂原料、製品等
金属	アルミ地金、軽圧品、セラミックス、炭素、レアメタル等
生活環境	物資、建材、ポール、不動産、食品等
情報電材その他	電子材料、機械、保険、総合人材ビジネス等

3 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益が化学品事業で8百万円減少、合成樹脂事業で45百万円増加、生活環境事業で47百万円増加、金属事業で31百万円減少、情報電材その他事業で5百万円増加しております。

4 事業区分の変更

事業区分につきまして、シナジー効果の強さを勘案して、「合成樹脂」及び「生活環境事業」に含めておりました機械関連の商品を「情報電材その他事業」に変更いたしました。

なお、この変更に伴い、セグメント情報に与える影響は軽微であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)

	化学品 事業 (百万円)	合成樹脂 事業 (百万円)	金属事業 (百万円)	生活環境 事業 (百万円)	情報電材 その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対 する売上高	16,447	23,132	17,405	6,959	4,564	68,509	—	68,509
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	11	11	0	13	94	132	(132)	—
計	16,459	23,144	17,406	6,972	4,659	68,641	(132)	68,509
営業利益又は 営業損失(△)	337	228	227	46	△96	743	6	749

(注) 1 事業区分の方法

当社グループの事業区分は、商品の種類、販売市場の類似性を考慮して行っております。

2 各事業区分の主要商品

事業区分	主要商品
化学品	有機・無機化学品、肥料、分析機器等
合成樹脂	合成樹脂原料、製品等
金属	アルミ地金、軽圧品、セラミックス、炭素、レアメタル等
生活環境	物資、建材、ボール、不動産、食品等
情報電材その他	電子材料、機械、保険、総合人材ビジネス等

3 事業区分の変更

事業区分につきまして、シナジー効果の強さを勘案して、「情報電材その他事業」に含めておりました触媒関連の商品を「化学品事業」に変更いたしました。

なお、この変更に伴い、セグメント情報に与える影響は軽微であります。

4 営業費用配賦方法の変更

従来、配賦不能営業費用として「消去又は全社」に含めて表示しておりました管理部門の共有営業費用につきましては、前連結会計年度において、事業の分社化が進展し、管理部門の連結グループ会社に対する寄与の割合が増大したことから、役務提供の実態をセグメント情報により適切に反映させるため、より適切な配賦基準に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報を当第2四半期連結累計期間の営業費用配賦基準によった場合の事業のセグメント情報は以下の通りとなります。

(参考) 前第2四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)

	化学品 事業 (百万円)	合成樹脂 事業 (百万円)	金属事業 (百万円)	生活環境 事業 (百万円)	情報電材 その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	11,335	20,685	14,766	8,083	3,373	58,245	—	58,245
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	13	6	—	9	86	115	(115)	—
計	11,349	20,692	14,766	8,092	3,459	58,360	(115)	58,245
営業利益又は 営業損失(△)	200	25	△27	206	△116	287	4	292

(参考) 各事業区分の主要商品

事業区分	主要商品
化学品	有機・無機化学品、石油製品、肥料、精密機器等
合成樹脂	合成樹脂原料、製品等
金属	アルミ地金、軽圧品、セラミックス、炭素、レアメタル等
生活環境	物資、建材、ポール、不動産、食品等
情報電材その他	電子材料、機械、保険、総合人材ビジネス等

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間における全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合が90%超のため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自平成21年1月1日 至平成21年6月30日）

	アジア	その他	計
I 海外売上高（百万円）	6,145	40	6,186
II 連結売上高（百万円）			58,245
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	10.5	0.1	10.6

（注）1 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

（1）国又は地域の区分の方法

地理的近接度によっております。

（2）各区分に属する主な国又は地域

アジア・・・中国、韓国、台湾

その他・・・アメリカ、ドイツ、アイルランド

2 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第2四半期連結累計期間（自平成22年1月1日 至平成22年6月30日）

	アジア	その他	計
I 海外売上高（百万円）	8,664	73	8,737
II 連結売上高（百万円）			68,509
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	12.6	0.1	12.8

（注）1 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

（1）国又は地域の区分の方法

地理的近接度によっております。

（2）各区分に属する主な国又は地域

アジア・・・中国、韓国、台湾

その他・・・アメリカ、ドイツ、アイルランド

2 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。